

おのきた

# 尾北校長室から

第20号



## 「大人ということ」～ 成人の日に

次の月曜日、1月11日は「成人の日」で、祝日です。大人（成年）となる年齢は、我が国では民法という法律で、現在は20歳となっています。一方、世界の多くの国では18歳のようで、我が国でも令和4年から18歳に下げられることが決まっています。この祝日の趣旨を調べてみると、「**大人になったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いほげます**」とあります。「大人としての自覚」が大切だということですが、それでは「大人になる」とはどういうことか、この機会に考えてみましょう。次の詩（一部略）は、そのためのヒントを与えています。

### 「成人の日に」 谷川俊太郎

人間とは 常に人間になりつつある存在だ  
成人とは 人に成ること  
もしそうなら 私たちはみな 日々成人の日を  
完全な人間は どこにもいない  
どんな美しい記念の晴れ着も どんな華やかなお祝いの花束も  
それだけでは 君をおとなにはしてくれない



他人のうちに 自分と同じ美しさをみとめ  
自分のうちに 他人と同じ醜さをみとめ  
できあがった どんな権威にもしぼられず  
流れ動く 多数の意見に惑わされず  
とらわれぬ 子どもの魂で  
いまあるものを 組み直しつくりかえる

それこそが おとなの始まり  
永遠に終わらない おとなへの出発点

冒頭、人間は常に人間になりつつある存在で、皆、完全な人間を目指して一日一日を生きているという。「おとなの始まり」とは、私は、

- ① 自分と他人の中に、同じ美しさと醜さがあることを認めること（共感的）
- ② 自分の中に意見や判断基準をもつこと（自律的）
- ③ 常に振り返り、新しい自分を創っていくこと（創造的）

ということだと受け止めています。最初の「自分と他人の中に同じ美しさと醜さを認める」の意味が少し難解に映ります。要するに、自分だけが良いところを持っているわけではなく、また自分だけが悪い点をもっているわけでもない。**他者と「共に歩む」**という姿勢が大切だということではないかと考えています。

最後の部分で、大人への出発点はあるが、ゴールは永遠にないとも言っています。それはそのまま「一人一人の常なる成長」を期待する作者の強い思いが表れているように思います。そういえば、Walt Disney (1901-66) も同じように *Disneyland will never be completed. It will continue to grow as long as there is imagination left in the world.* (DLが完成することはない。世の中に想像力がある限り、進化し続ける。) と言い放っています。ディズニーランドには何度行ったか分かりませんが、多くの人にとって今も確かに夢の国・・・。



北高生の皆さん、「**大人へのスタートライン**」に立つ準備は、できていますか？ それには、「**共感的、自律的、創造的**」であるかどうかというチェック・ポイントがあります。日常生活の中で、その意味を考えていきましょう。そうすることが大人への**スタートラインに立つ準備運動**となっていくのだと思います。この槇峰の丘でしっかり準備を続けてください。